

かりやすが  
菟安賀遺跡

**調査の経過** 菟安賀遺跡は一宮市大和町菟安賀に所在し、北には八王子遺跡がある。遺跡周辺は八王子遺跡とは異なり民家が密集する集落地域となっている。

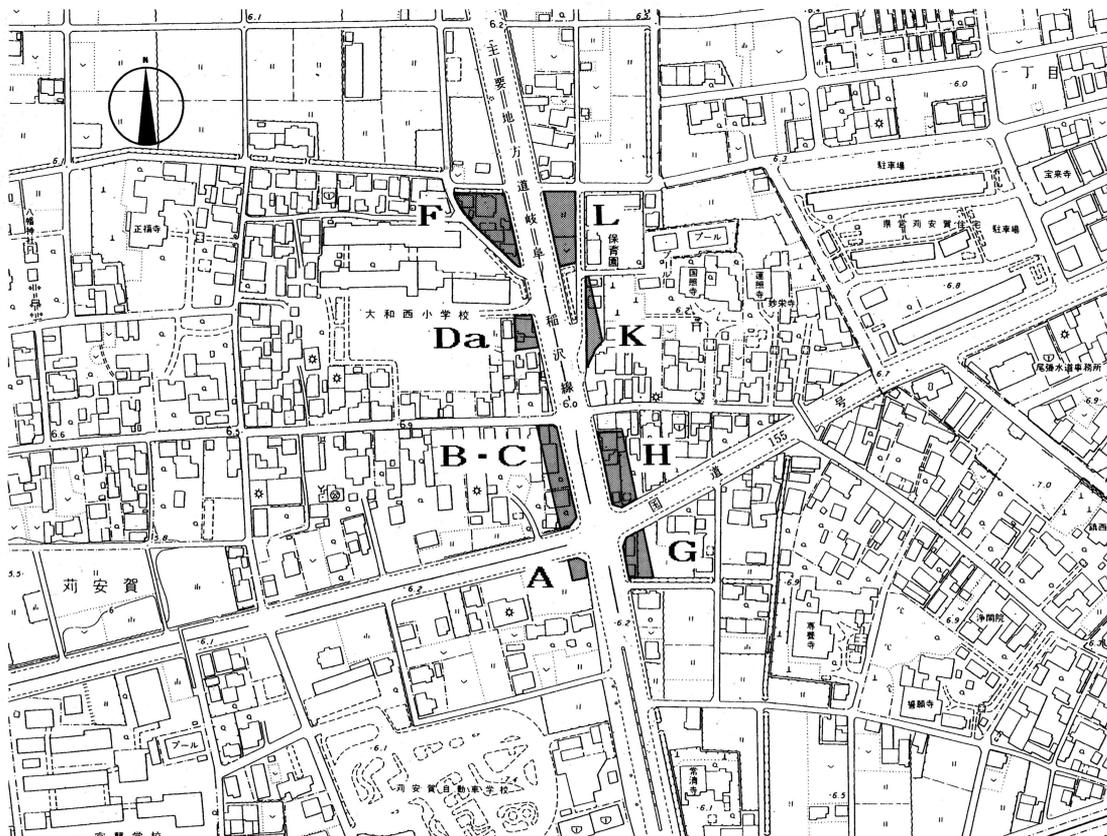
発掘調査は東海北陸自動車道建設に伴う事前調査として実施されたものであり、調査面積は4,989㎡である。

**調査の概要** 調査は尾張中央道に沿って南北に並ぶA区からL区までの9調査区について実施した。

検出された遺構・遺物は、大きくA期：弥生時代、B期：古墳時代、C期：中世（戦国）、D期：近世から近代、の4期に区分でき、このうち中心をなすのがD期である。C期については、菟安賀城本丸推定地が南西に存在することから城館関連遺構・遺物の出土が期待されたが、遺構に関しては明確ではない。

**A期** 96B・C区で検出された大溝の下部から弥生中期細頸壺が出土し、周辺からもほぼ完全に近い甕が出土した。他に同時期の遺構は認められなかったが、B・C区では基盤砂層の上昇が確認でき、比較的古くに形成された自然堤防であることが推定された。八王子遺跡の弥生集落南縁を画す河岸の対岸である可能性がある。

**B期** 八王子遺跡と接する96F区で井戸状遺構を、同じく96L区で井戸状遺構と区画溝を検出した。削平が著しいのか建物などは未検出である。



第1図 菟安賀遺跡調査区位置図 (1:5000)

**C期** 確実にC期に属す遺構は96C区・96D区・96G区・96H区南部、で検出した。このうち96G区では旧河道から土師皿（灯明皿）・塔婆・漆椀がまとめて出土したほか、隣接する近世の溝からは花崗岩製の五輪塔の空輪が出土した。また、国道155号を挟んで北に位置する96H区では幅1mほどの陸橋部をもって東西に走る溝（塀の基礎：布掘り）が検出され、溝上部から炭化物や灯明皿などが出土した。これらは特定の空間に伴うものであった可能性が高い。

96D区では東西に走る幅5～7mほどの大溝を検出した。最近まで水路として利用されていたもので、幾度となく改修が加えられている。地元では「外堀」と呼ばれていたとのことであり、菟安賀城関連の可能性もある。

**D期** 遺物・遺構ともにもっとも充実している。96C区・96H区の北を東西に旧街道が通っていることから、宿場町の展開に関係するのであろう。96C区では建物は明確に把握できなかったが、井戸の集中する地点が認められた。井戸は桶組みが通例であり、ほとんどが砂の噴き出しによって廃棄されていた。地震によるのであろうか。

以上の成果はいずれも断片的であり面的に考えるための手掛かりは極めて少ないが、八王子遺跡、菟安賀城、菟安賀宿などとの関連を明らかにしなければならないと考えている。

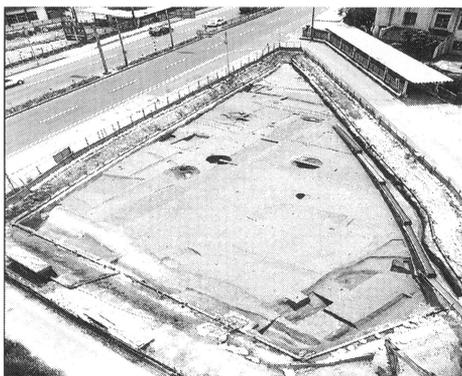
（石黒立人・大崎正敬）



96B・C区 南半部



96D a区大溝



96F区 全景



96L区 全景